



講師の大菅明先生（左）と小林岳志先生（右）

歯科訪問診療研究会

訪問診療の実際をお見せします！

～診療風景のビデオ映像を見ながら～

講演内容とビデオ映像をダイジェストで紹介します。
（一面に報道記事）

【第1部】

要介護者のQOLを支える 歯科訪問診療

富山市・小林歯科医院 小林 岳志

【症例1】 89歳女性
主病：座骨神経痛
自宅で療養（要介護3）
主訴：義歯不適

市内で居宅療養する患者。この日は先日製作した義歯の調整のため訪問。



切削時の粉塵の飛散を防ぐため、ビニール袋内で切削を行なう。



酷暑の最中の訪問だったため、熱中症対策をアドバイスして患者宅を後にした。

【症例2】 90歳女性
主病：脳梗塞、左大転子部骨折
施設で療養（要介護3）
主訴：義歯不適、う蝕

施設で療養する患者。この日はう蝕処置と義歯調整を行なった。

う蝕処置には歯科医師会で貸し出しているポータブルユニットを使用。これ一台で十分足りる。フルブリッジを形成したこともある。



研究会DVDをご希望の方は協会事務局まで連絡ください。実費で提供します。
協会TEL：076(442)8000

切削のあと、コンポジットレジンを使い、充填する。一液性のボンディング剤は審美性に劣ることもあるが、操作性の良さから訪問診療では使用することがある。



【症例3】 86歳女性
主病：脳梗塞、認知症
施設で療養（要介護4）
主訴：義歯不適、義歯新製希望、摂食嚥下機能訓練希望

施設で療養する女性。脳梗塞を患った後、流動食となっていたが、先日、義歯を新製して、この日は嚥下機能訓練を行ない、その後、施設の管理栄養士と食形態の改善について検討した。



なお、この患者は義歯を入れたことで要介護度が改善（4→3）した。

【第二部】

要介護度の高い患者の症例

朝日町・大菅歯科医院院長 大菅 明

【症例4】 88歳女性
主病：アルツハイマー型認知症、糖尿病、高血圧、狭心症
要介護4
主訴：義歯破損

かなり認知症が進み、意思疎通が困難な患者。義歯を床に落とす癖があり、短期間に修理が続いたため、今回新製することとなった。



旧義歯をトレイ代わりに使い、印象材を盛る。訪問診療ではかかる手間をできるだけ省くことが重要。

義歯の印象を取るにあたり、1人が頭を抱え、もう1人が手を抑え3人がかりで行なう。



要介護度の高い患者の口腔ケア

保健師 大菅 直美

【症例5】 89歳女性
主病：廃用症候群、認知症、大腸がん
要介護5
主訴：口腔ケア希望

居宅で療養する要介護度の高い患者。四肢の拘縮が進み、ベッド上の体位変更もままならない。この日は吸引機能付きのモアブラシを使い、吸痰しながら口腔ケアを行なった。



施設入所者の口腔ケア

歯科衛生士 上田 美枝子

【症例6】 90歳女性
主病：くも膜下出血
要介護5
主訴：口腔ケアをさせてくれない

施設で療養する女性。口腔ケアの回数を重ね、「じゃんけん」でコミュニケーションをとり続けるうちに、なんとかケアを受け入れてもらえるようになった。

